



よしなが さだ ふみ

吉永定史さん

●プロフィール

39歳。厳原町出身。対馬高校を卒業後、長崎県立大学へ進学。卒業を間近に控えた頃、父が急逝。卒業を機に帰郷し、実家の生花店で働く。地元の消防団や商工会の活動などに参加。一昨年より商工会青年部厳原支部長を務め、今月任期満了を迎える。結婚6年目。ひと回り年下の妻と2人の息子、母との5人暮らし。今屋敷在住。

○お父様のこと、残念でしたね。大学4年の10月でしたから、就職先の内定もいただいていた。でも僕の下にまだ妹と弟2人がいましたし、母と店のこともありましたから、とりあえず帰ろうと思って。厳原に帰ってくると、地元の先輩達から消防団に入れ、青年部に入れ、と言われるままに加入しました。社会に出たことがなかったわけですから、この地元の活動が最初の社会勉強の場になりました。楽しいこともあれば、何で怒られるんだろうとも思いますが、先輩にいろんなことを教えてもらいました。友達もできたし、いろんな人にも出会えました。活動に加わっていなかったら、ただの甘ちゃんだったかも知れません。父が亡くならなかったら、僕はこんなに早くには対馬に帰らなかったと思うし、みんなや妻にも会わなかっただろうし、この家族も持っていなかった。そう思ったら、父の死があつてのめぐり合わせだなあ、と思います。

○青年部活動への思いに変化があったのはいつ頃ですか？
子どもが生まれて以降でしょうか。対馬の子どもに、露店が賑わい花火の上がる祭りを経験させてやりたい。子どもたちの

ために、僕たちが頑張つて祭りを盛り上げたいという思いが強くなりました。

○2年間の支部長時代を振り返ると？
仏像問題を抱えて始まり、1年目の港まつりは名称変更や朝鮮通信使行列の中止、久田の新道開通に伴う対応、ペギンセ舞踊団の中止に変わってよさこいのお披露目：と目まぐるしかったです。2年目は港まつり50周年に当たり尺玉花火の計画まで立てつつも、まさかの台風で中止。商工会10周年イベントとして昨年11月に計画した「そびきぐるう大会」も、雨で延期(苦笑)。みんなから雨男と言われ、こんなに忙しい時期はなかったんじゃないかと思えます。今年は厄年なので、これよりもっとひどいことが起こるんじゃないかと心配(笑)。

○新たな試みにも取り組まれましたね。
全島の青年部で初めて婚活イベントを行いました。1泊2日のスケジュールの中、どこに行くか、どう楽しませるか、参加者が会話しやすくなり、それぞれの思いに気づかせてあげる配慮の仕方などをあれこれ話し合つて準備しました。自分の家族との時間を削つて人の幸せの

ために奔走したわけですけど、人の運命を変えるひと時に携わることができたのは嬉しくもありました。15組中14組のカップルが成立して、結婚を考えている人もいるそうだと聞くと、またやってみたいと思いますね。

○これからの歩み、展望は？
商工会青年部の活動を通して、コソソレや佐須響心会、M-I-Tなどいろんな団体と出会いました。それぞれ方向は違つても、共通の思いは「対馬を良くしたい」。いろんな力が集まつても、もう一つ上の流れになつていったら良いですね。僕自身は、部長の経験を生かして後輩を見守りつつ、地域のために何かしていきたいと思えます。ボランティアでやつてる活動に代価はないけれど、喜んでくれる人たちがいる。特にこの2年間でその気持ちが強くなりました。任期中を振り返ると、後悔がないと言つたら嘘になりますが、この気持ちを次の代に伝え、託したいです。大切な時間を割いた家族のためにも、何か恩返しがしたいですね。

毎回、登場してくださった方に次の方を紹介いたたくこのコーナー。今回は厳原町天道茂にお住まいの須澤佳子さんです。お楽しみに。